

中部支部40周年記念事業について

中部支部40周年記念事業実行委員会

1. まえがき

土木学会中部支部は、昭和13年5月29日に発会式と第1回総会を行い発足したので、昭和53年5月には満40年を迎えることになる。中部支部では、昭和52年8月より、幹事会・役員会・顧問会の審議を経て、同年10月に記念事業実行委員会を設置し、支部設立40周年を祝う多様な行事を企画・運営してきた。記念事業の内容は、(1)記念式典・パーティーの開催、(2)中部支部功績者の表彰、(3)中部支部四十年誌ならびにその続編の発行、(4)記念座談会の開催、(5)職場振興の強化ならびに会員の増強運動などであった。

この報告では、まず記念事業の経過について述べ、次いで、記念式典・パーティー、中部支部四十年誌ならびにその続編、職場振興の強化ならびに会員増強運動について紹介する。なお、記念座談会は昭和53年9月12日と昭和53年10月11日の2回開催され、会員皆様より貴重な発言をいただいたが、その内容については、中部支部報告その3「中部支部40周年記念座談会について」に紹介している。

2. 経過報告

中部支部が、昭和53年に設立40周年といかに迎えるべきかということが初めて話題とされたのは、昭和52年7月5日の昭和52年度第3回幹事会であった。この会議では、昭和52年5月11日に50周年記念式典を挙行した関西支部の例、また、中部支部では長年にわたる過去の記録を整理することが近年の事務局の引継ぎ事項となっていることなどが紹介され、これらを考慮して記念事業を検討することとなった。

昭和52年8月9日の第4回幹事会では、40周年記念事業は、昭和52年度事務局・昭和53年度事務局・建設業界代表で構成される「記念事業実行委員会」によって企画・運営されることが望ましいこと、実行委員会が発足するまでは昭和52年度事務局が支部の歴史に関する資料の発掘と記念総会の準備と鋭意推進すべきことが確認され、支部設立40周年記念事業に向っての第1歩を踏み出した。

その後、9月2日の第2回役員会、9月29日の評議員会・顧問会において、記念事業の趣旨が承認されるとともに、評議員会・顧問会において、昭和53年度中部支部長に愛知県土木部長中本正則氏が選出され、愛知県土木部道路建設課が昭和53年度事務局を担当することとなった。

昭和52年10月4日の第6回幹事会では、中部支部設立40周年記念事業実行委員会の組織について協議し、委員長に市原松平氏（昭和52年度中部支部長・当時名古屋大学教授）、副委員長に中本正則氏を選出し、そのもとに記念式典・パーティーを担当する事業部会（愛知県土木部道路建設課）、支部の歴史を編纂する記念誌編集部会（名古屋大学）、記念事業の会計を担当する庶務部会（建設業界代表者）を設けることを確認した。

第1回実行委員会は、第6回幹事会終了後直ちに開催され、記念事業としては(1)昭和53年4月7日に愛知県産業貿易館で記念式典・パーティーを実施すること、(2)記念式典では、中部支部役員として20年以上務めた方と中部支部功績者として表彰すること、(3)中部支部四十年誌を出版することなど

確認した。

その後、記念事業実行委員会は、記念式典が挙行された昭和59年4月7日までに10回、同年5月以降今日まで4回の会議を開催してきた。

3. 記念式典ならびにパーティー

中部支部設立40周年を記念する総会・式典・パーティーは、昭和59年4月7日(金)午後1時30分より愛知県産業貿易館で盛大に行われた。奇しくも、40年前に支部の発会式を行った愛知県商工館はこの愛知県産業貿易館の前身であった。

当日は、前夜までの雨も上り、一段と春らしいと感じさせる中、東京から水越進雄土木学会会長、川越進雄土木学会専務理事、関西から松尾新一郎土木学会副会長、足立力関西支部長らの来賓を招き、学会員約120名が出席した。

約30分間の記念総会の中から、植下協氏(昭和52年度幹事長、名古屋大学教授)の司会によって記念式典は進められた。まず、昭和59年度中部支部長中本正則氏が開式のあいさつを行い、記念事業実行委員会委員長市原松平氏が記念事業報告を行った。続いて、水越進雄土木学会会長ならびに足立力関西支部長から、それぞれ、中部支部にまつわる土木工事・思い出等を含んだ心温められる祝辞があった。

引き続き、中部支部40年の歴史のうち、その半分以上、すなわち20年以上にわたり、支部役員として支部の運営に貢献された14名の方々(五十音順に紹介すれば、荒井利一郎、石田二郎、井上亨太郎、横 修二、大林勇治、小野一良、杉戸 増、谷 重幸、中谷成一、土方大武、松見三郎、松本金吾、渡辺新一、渡部時也の各氏)に中部支部功績賞として表彰状と記念品が授与された(写真1参照)。

その後、土木学会名誉会員・中部支部顧問杉戸 増氏により、「土木事業の展望」と題する記念講演が約1時間行われた。講演内容は、土木学会の果してきた業績、土木事業の範囲とその影響、土木事業のやり方、近ごろの問題点についてであり、厳しい批判の中にもユーモアをまじえ、我々土木技



写真-1

中本中部支部長より表彰状を授ける
中部支部功績賞受賞者

術者に反省と進む意欲深い講演であった。なお、この記念講演の要旨は、土木学会誌の昭和59年10月号pp.70~72に掲載されており、それとこの報告のpp.7~9に紹介した。

記念パーティーは、式典が開かれたと同じ愛知県産業貿易館内で、会場を5階の国際会議場広間に移し、午後4時から約1時間にわたって行われた。

福本明士氏(名古屋大学教授)の司会のもとに、中部支部最長老顧問の松本金吾土木学会名誉会員の首頭による乾杯で開宴した。パーティーでは、松尾新一郎土木学会副会長、川越進雄土木学会専務理事、松田龍夫(財)中部科学技術センター専務理事、成岡昌大日本材料科学会中部支部長、豊内敏雄武蔵大学工学部長からの心暖まる祝辞があり、和気あいあいの雰囲気の中で、学会員相互大いに語りあい午後5時すぎ、大林勇治土木学会名誉会員が、「土木学会の増々の発展を祈念して」万葉三喝の首頭となり、盛会のうちに終了した。

なお、記念式典・パーティーでの祝辞等は、昭和52年3月発行の中評支部四十年誌統編に掲載されるので、それとご覧いただきたい。

4. 土木学会中評支部四十年誌

土木学会中評支部の歴史をまとめた「中評支部四十年誌—中評における土木学会史—」は、昭和52年4月7日に発行された。この中評支部四十年誌は4章300ページから成り、第1章中評支部の歴史には、大正3年9月15日に土木学会が創立されて以来昭和52年3月まで、中評支部に關係する学会活動の歴史を約200ページにわたり掲載している。編集形式は、創刊以来の土木学会誌の会報あるいは会誌記事と編集転載したものであり、各行事での内容・寄附文・出席者等の記録が整理されている。第2章中評支部の現況では、中評支部会員数、推挙、集約・集約別分布状況、支部行事とその運営の現況、現在の中評支部事務所ならびに図書室について紹介している。第3章中評支部40周年によせては、土木学会誌昭和52年11月号の会誌で学会員からの寄稿をお願いしたもので、合計12編の原稿と初代支部長杉山栄氏、第2代支部長比沢元男氏、第3代支部長田村寿郎氏などの貴重な写真が掲載されている。第4章中評支部歴代役員では、支部設立以来の支部長・顧問・幹事・幹事のほか中評支部選出の本部副会長・理事・監事・評議員と務められた約600名（連べにすると約2600人年）の方々の氏名と整理して掲載している。さらに付録では、総会・研究発表会・技術講座・講習会の開催一覧や、現在中評支部が所蔵する土木学会ならびに他支部からの寄贈による図書の一覧を示している。

なお第1章中評支部の歴史と第2章中評支部の現況の要旨は、昭和52年度中評支部研究発表会において、中評支部報告（pp.1~8）として当時の幹事長植下福次氏後ならびに杉浦ス美子氏は事務職員から報告されている。

次に、現在中評支部では、中評支部四十年誌統編（8編よりなり約250ページと寸差）の出版作業を進めている。これは、上述の四十年誌の編集期間がわずかに半年であり、40年の中評支部の歴史と語るにはあまりにも短期間であったこと、また、支部設立40周年という歴史的出来事と後世に残すという考えから企画されているものであり、その内容は次のとおりである。

第1章中評支部設立40周年記念式典ならびにパーティー、第2章記念講演「土木事業の展望」は、それぞれ、昭和52年4月7日開催の記念式典・パーティーでの祝辞・講演と録音テープより文書化したものである。第3章歴代中評支部長は、初代支部長杉山 栄氏から昭和52年度支部長中本正則氏までの39名の歴代中評支部長と肖像写真によって紹介している。第4章中評支部功績賞と受賞された方々は、昭和52年度受賞者の日井英次・高桑綱一郎・長坂一孝の3氏と昭和53年度受賞者14名の方について、御経歴や受賞者の思いと語など紹介している。この17名の方の原稿では、長年にわたり土木学会員として歩んでこられた中で築かれた、土木技術者としての誇り、人生訓、昭和時代の土木及び工学の進展の様子、土木の分野における人の和の大切さなどが語られている。

第5章中評支部40周年に寄せては、土木学会誌昭和52年4月号の会誌によつて広く学会員から原稿を募集し、その結果寄せられた12編の原稿を紹介したものである。それらと内容的に大別すれば、(1)中評支部の行事・運営に関するもの3編、(2)中評の発展に貢献された方々の思い出と述べたもの4編、(3)土木工学・実務・研究に関するもの5編となっている。

第6章・第7章は、それぞれ40周年記念座談会と中部における大学・高専の土木工学科ならびに関連学科・施設の概要である。それらの要旨は、中部支部報告その2・その3に報告するので、ここでの紹介は省略する。

第8章創刊以来の土木学会誌における中部地域開催記事は、大正4年2月に刊行された土木学会誌第1巻第1号から、昭和52年12月号(第62巻12号)までの63年間の土木学会誌の巻頭・報告・論文・ニュース等に掲載された中部地域の工事・施設・災害等に関する記事555篇を紹介したものである。掲載形式は、記事の内容によって、「電力・ダム」、「鉄道」、「道路」、「トンネル」、「橋梁」、「河川・水文」、「港湾・海岸」、「交通・都市計画」、「上・下水道」、「災害・防災」、「その他」の11の分野に分け、標題、著者名、掲載年月、その要約等と示している。

5. 職場班の強化ならびに会員増強運動

近年における中部支部会員数の状況は、昭和52年度中部支部報告「土木学会中部支部の現況について」(pp. 5~8)の図-1からわかるように、昭和50年代に入ってやや減少の傾向にあり、昭和52年9月末での正会員+学生会員の数は2720人であった。そこで、会員の増強運動を進めることも、40周年にふさわしい事業であると考え、昭和53年4月7日の記念式典において、市原松平実行委員長が、支部役員を中心とした学会員の増強運動と呼びかけた。

その後、土木学会員ならびに新しく土木学会員となる人達に十分な学会サービスをするためには各職場ごとの班組織を強化することが、より望ましいことであろうという考えから、昭和53年8月17日には「土木学会職場班の強化・充実にお願い」が中部支部長から全ての支部役員になされた。さらに、昭和53年12月には、職場班未組織の中部支部の商議員・幹事には、職場班強化の依頼状を発送した。また、土木学会員のワケを広げるという考えから、中部七県に存在する31の工業高等学校土木科教職員にも、中部支部40年誌を添えて職場班組織のお願いをした。

その結果、昭和53年度になって、豊橋技術科学大学、矢作建設工業(株)、大同工業大学、名古屋市立工業高校に新たな職場班ができ、学会員としては正会員51名、学生会員197名の入会があり、昭

表-1. 土木学会中部支部職場班の現況 (35班)

班 名	班 長 名	学会誌数	論文集数
名古屋大学	足立昭平	145	23
信州大学	小西純一	84	8
愛知県土木部	東 義雄	63	3
名古屋工業大学	吉田弥智	58	13
中部工業大学	高田 彰	48	10
名古屋港管理組合	大森直樹	39	2
名古屋市交通局	三浦修一	38	1
岐阜大学	河村三郎	37	10
中日本建設コンサルタント	竹内尚志	36	3
名古屋高速道路公社	竹田和信	33	9
金沢工業大学	西田 進	33	8
金沢大学	二木幹夫	28	9
静岡県土木部	太田公夫	28	1
愛知工業大学	根橋直人	26	10
岐阜工業高専	渡部卓郎	22	0
豊橋技術科学大学	加藤史郎	21	1
東海大学	斎藤 晃	21	1
国鉄岐阜工事局	技術管理室長	20	3
第五港湾建設局	佐藤恒夫	18	0
三祐コンサルタント	久野庄太郎	17	3
中部電力水力室	安藤兼治	16	5
名古屋鉄道	杉山孝雄	15	0
豊田工業高専	川上雅一	11	7
石川工業高専	布本 博	11	1
矢作建設工業	佐原新治	10	0
中部電力総合技術研究所	大沢 勲	9	1
大同工業大学	桑山 忠	9	0
鉄道建設公団名古屋支社	足立真澄	7	0
岐阜県土木部	川村武司	6	1
三重県土木部	田中美三	6	1
国鉄名古屋管理局	大野信義	6	0
名古屋市立工業高校	秋山伸二	6	0
長野県土木部	島田洪三	4	0
電源開発手取川建設所	木内 治	2	0
富山新幹線	伊藤 隆	1	1
合 計		934	135

和33年10月末における正会員＋学生会員の数は2822名となった。(しかしながら、職場班に組織されている会員数は934名(表-1参照)で、全体の33.1%であり、今後も、中部支部内での職場班強化運動の継続が望まれる。

そこで、職場班新設の手続きについて紹介する。なお、職場班の利点については、中部支部四十年誌の198ページを参照していただきたい。

職場班新設のための用紙は特に定められていないが、図-1に示すように、班名・班長氏名・班の所在地(連絡先)・班を構成しようとするものの氏名を書き、土木学会本部会員課(〒160 東京都新宿区四谷一丁目)に直接申し込んでいただきたい。なお、新たに土木学会入会を希望する者は、図-2に示した所定の入会申込書に必要事項を記入して提出しなくてはならない。

職場班新設の申込者ならびに土木学会入会申込書の各用紙は、土木学会中部支部事務所(〒460 名古屋市中区栄二丁目17-22、中部科学技術センター内)に預かってあるので、必要枚数をお電話いただければ、お送りすることとなっている。

6. あとがき

土木学会中部支部設立40周年を記念する事業も、昭和54年3月に中部支部四十年誌発刊と発行することにより、全ての事業を無事終了することとなる。ただ、職場班強化・会員増強運動は、十分な成果に到達するまで継続されることが望まれている。

実行委員会も、昭和54年度の総会をもって解散することとなるが、実行委員の各人はこの伝統ある土木学会中部支部の記念すべき事業に参画できたことと大変光栄に思っている。最後に、今回の記念事業に多大の助力と援助を惜しまれなかつた支部役員ならびに学会員の皆様には心からの感謝を申し上げる次第である。

職場班新設の申込書

班 名 : _____

班長氏名 : _____ 印

班の所在地 : 〒 _____ TEL. _____
(連絡先)

	氏 名		氏 名
班長		7	
1		8	
2		9	
3		10	
4		11	
5		12	
6			

注意：新しく入会される方は、氏名の前に○印を付けるとともに、別紙の土木学会入会申込書にも必要事項を記入して下さい(1枚1枚)。

図-1 土木学会職場班新設の申込書

社団法人 土木学会入会申込書

会員種別	会員	学位 称号	ふりがな _____ 氏 名 _____ ④ 生年月日 明・大・昭 年 月 日 生		
勤務先	所在地: □□□□-□□ 名 称: 職 名: 電話 () ー 番				
自宅	□□□□-□□ 電話 () ー 番				
職場班 (加入の場合)	第 班 班 長 氏 名 ④				
送本先	勤務先 自宅 職場班 (いずれかに○印をつけて下さい)				
学歴概要	学 (校) 学部 科				
	年 月 入 学		年 月 卒 業		年 月 卒業予定
	大学大学院 科 専攻				
	年 月 進 学		年 月 終 了		年 月 終了予定
入会申込 年 月 日	昭和 年 月 日		入会承認 年 月 日	昭和 年 月 日	
送金内容	会 費: _____ 円 年 月から 月 日 年 月まで か月分 論文報告集購読料: _____ 円 昭和 年度分 現金書留 郵便振替 で送金した				
通 信 欄	昭和 年 (頃) まで正会員・学生会員であった。				

社団法人 土木学会 郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目
電話 (03) 355-3441 (代) 郵便振替 東京 6-16828

図-2 土木学会入会申込用紙